越中万葉の仲間たち

家持くん

家持の家族 大伴家の人々

叔母

坂上郎女（さかのうえのいらつめ）

平城京に住んでいる。義理の母でもある。恋多き女性だったとも。

遠い越中にいる家持が心配で何度も歌を贈ったわ【3927】

父

旅人（たびと）

家持がこどもの頃に亡くなる。お酒が好き。武人の政治家。

私が九州の大宰府で開いた梅の宴を覚えていたのだね【4174】

親子

妻

坂上大嬢（さかのうえのおおいらつめ）

いとこでもある。妹がいる。家持と仲が途絶えたことがある。

夫の任期後半から越中に参りました。歌の代作は夫におまかせです

夫婦

大伴家持（おおとものやかもち）

困ったことに、母と妹の名前は、わからないのです。
永主（ながぬし）という息子もいますが、越中万

弟

書持（ふみもち）

都で、越中に出発する家持を見送った数ヶ月後に亡くなってしまう。

一度でいいから、越中の有磯海（ありそうみ）が見たかった【3959】

妹

留女の郎女（るめのいらつめ）

平城京に住んでいる。越中の家持夫婦と歌を交わす。「留女」とは、都にいる妹という意味。

山吹を見ると、兄さんについて越中に行ったお義姉さんのことを思い出すわ。会いたいです

【　】の中の数字…セリフに関連する万葉集の歌番号

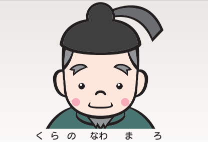
守（かみ）

越中国で１番高い役職
国の長官

部　下

介（すけ）

越中国で２番目に高い役職



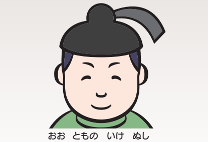
内蔵縄麻呂（くらのなわまろ）

越中国で家持に次いで地位が高い。気配りのある風流な歌を詠む。

布勢の水海（ふせのみずうみ）の美しい藤の花を髪にかざして行きましょう。まだ見てない人のために

掾（じょう）

越中国で３番目に高い役職

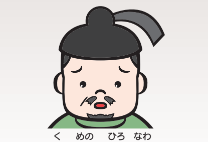


大伴池主（おおとものいけぬし）

越中で家持を出迎えた部下。越前国に転勤になる。家持と手紙で歌をやりとりする。

家持さまが病気の時、さびしがっていたので、たくさん歌のやりとりをして励ましてあげました【3967】

後任



久米広縄（くめのひろなわ）

池主の後任。家持が都に帰る時に出張中だったが越前で再会。

家持さま、帰京まぎわに歌ありがとうございます。一緒に鷹狩りしたかったです

大目（だいさかん）

越中国で４番目に高い役職

秦八千嶋（はだのやちしま）

奈呉の海が見える客間のある官舎に住む。

家持さま、僕が玉だったら、本当に都に連れて行ってくれました？【3990】

後任

高安種麻呂（たかやすのたねまろ）

八千嶋の後任。自作の歌は万葉集にみられない。

家持さま、僕の知っている古歌、気に入ってもらえました？【4247】

少目（しょうさかん）

越中国で５番目に高い役職

秦石竹（はだのいわたけ）

宴を主催した時、百合の花を用意。琴が弾けるようだが、歌は1首も残らない。

家持さま、僕の琴、そんなにうまいですか？【4135】

史生（ししょう）

下級の書記官

尾張少咋（おわりのおくい）

越中国で浮気をして、家持に注意される。

里の人たちの視線が痛かったです【4108】

土師道良（はにしのみちよし）

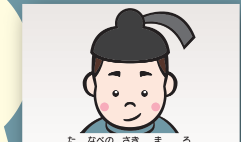
万葉集に１首のみ。家持越中赴任の歓迎会の歌。

そろそろ、今日の宴はお開きですよ【3955】

越中時代の家持の仕事仲間

都からのお客さん

造酒司の令史（さけのつかさのさかん）



田辺福麻呂（たなべのさきまろ）

橘諸兄（たちばなのもろえ）からの使者で、越中にやって来た万葉歌人。

すみません。布勢の水海（ふせのみずうみ）、あなどってました。いくら見ても飽きないです

平栄（へいえい）

東大寺の僧。越中に来て、家持の歓迎をうける。越中には開田地を探しに来た。

地酒ごちそうさまです【4085】

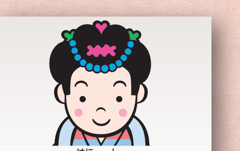
少咋の妻（おくいのつま）

夫の少咋が越中で浮気している噂を聞きつけ、都から早馬で越中国府に殴り込みに……。

ひたすら待っていたのにぃ（怒）【4107】

夫婦

遊行女婦（うかれめ）（接待役の女性たち）



土師（はにし）

田辺福麻呂接待のための布勢の水海（ふせのみずうみ）遊覧に同行。

今日の舟遊びの楽しさ、後々まで語っちゃいます【4047】

蒲生娘子（かもうのおとめ）

縄麻呂の館で開かれた宴に同席。

雪の岩に植えたナデシコは千年もかかわらず咲いて欲しいわ。あなたの髪飾りにするために

左夫流（さぶる）

少咋の浮気相手。

家持さま、私ってベニバナ染めのように、すぐ色あせるの？【4109】

浮気

※上のイラストのように当時の服の色は、位ごとに着られる色が法律で定められていた。